

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校の生徒ひとりひとりが、本校で充実した学校生活を過ごす中で、明るい将来の展望を持ち、自らの個性と、将来果たすべき社会的な役割を意識して、幸せな人生を歩めるように、

1. かけがえのない存在として自分の能力を信じて、伸びしろに期待した高い目標に挑戦し、失敗して学び、達成で成長の喜びを実感する学校（ You can do it! The sky is the limit. 青天を衝く挑戦。）
2. 志や使命感を持ち、他者への感謝と思いやりを忘れず、礼儀を弁えて、自らの品性と教養とを磨く学校（ Stay Elegant. Stay Confident. 優雅、堂々。）
3. 毎日を充実させて、何事も自ら考え判断し、仲間と協働して、自ら創造と変化を引き起こすことができる学校（ Consider, Collaborate, Create, Change! Seize the Day.

2 中期的目標

1. 学力・学習力の向上と進路実現支援

(1) 学習マネジメント力の育成

生徒が学習における「R-PDCA サイクル」を通して、自己の学習の進め方を自律的に改善していけるよう支援する。
〔R (Research) 診断 → P (Plan) 計画 → D (Do) 実施 → C (Check) 評価 → A (Action) 改善の5つの段階を循環させるサイクル〕

- (ア) 生徒が継続的にリフレクションを行い、教員が適切にフィードバックできるシステムを整える。
- (イ) ICT 機器やオンライン・オンデマンド学習環境を充実させ、生徒が自主的・計画的に学習をすすめていける環境づくりをすすめる。
- (ウ) 校内における生徒の自習スペースを拡充し、自学自習による学力向上が叶うようにする。

* 〔学校評価に関する調査〕生徒5「学習習慣を定着させる指導をしている」令和6年度には指標を9.0程度まで上げる。
(R1:6.7/R2:8.7/R3:7.0)

指標=(SA×2+A×1+D×(-1)+SD×(-2))/10 [SA:あてはまる/A:どちらかといえばあてはまる/D:どちらかといえばあてはまらない/SD:あてはまらない]

(2) 学ぶ意欲を高める授業・探究活動の充実

主体的・対話的な授業づくりを全教員で進め、「総合的な探究の時間」の充実とともに、各科目においても探究的な学びを生み出す授業を工夫し、深い理解とさらなる学びの意欲につなげる。

- (ア) 生徒の「ふりかえり」、授業アンケート結果、教員相互の授業見学や授業研究等、生徒の学習効果についての検証ができるカリキュラム・マネジメント体制を整える。
- (イ) 「総合的な探究の時間」を、生徒の教科での学びを横断的に関連づけ、学びへの意欲をさらに高めていく学習へと発展させる。

* 〔学校評価に関する調査〕生徒3「学ぶ意欲を引き出す授業をしている」令和6年度には指標を8.0程度まで上げる。(R1:6.0/R2:7.2/R3:7.6)

(3) 「人生100年時代」を生きる生徒の進路実現支援

多くの生徒が志望する大学受験指導はもとより、受験のその先にあるものを見定め、大学や社会でさらに成長していく生徒を育成する。

- (ア) 本校卒業生をはじめ、外部の講師や職業人と交流し、変化の激しい社会を生きる自己のあり方を考える機会を1年次からもうけ、生徒のキャリア意識を高めていくための支援を行う。
- (イ) 生徒の「受験力」を向上させるための系統的な計画のもと、教員のスキルアップを図り、生徒が目的意識をもって主体的に取り組んでいくための支援体制や環境整備を進める。

* 〔学校評価に関する調査〕生徒8「進路実現に向けて適切に指導している」令和6年度には指標を12.0程度まで上げる。
(R1:10.1/R2:11.6/R3:11.8)

* 令和6年度には国公立大学への進学を希望（3年次4月時点）した生徒の現役合格率40%以上をめざす。(R1:23.8%/R2:35.9%/R3:30.9%)

* 令和6年度に国公立大学への合格者数を卒業生の20%、50名以上にする。(R1:11%/R2:15%/R3:14%) (R1:35名/R2:43名/R3:38名)

2. 主体的行動力の育成

(1) 自治力、活動力の強化

社会を生きる市民としての力量を備えた人を育成するために、様々な教育活動の場面で、生徒が自ら考え、他者とともに行動し、その成果と課題を検証する機会を設ける。

- (ア) 体育祭、文化祭、HR合宿、スポーツ大会、壱月祭等の生徒主体の取組みはもとより、学校生活の様々な場面での生徒の参画意識を高めるために、自治会活動や委員会活動等のさらなる活性化を図る。
- (イ) 生徒の約9割が加入する部活動を本校における生徒育成の重要な柱と位置づけ、部活動のあり方を検討し、全教員による指導体制を整えるとともに、外部人材の積極的活用もすすめる。

* 〔学校評価に関する調査〕生徒13「生徒の自主性を重んじている」令和6年度には指標12.0程度まで上げる。(R1:10.8/R2:11.8/R3:11.0)

(2) 家庭・地域・社会との連携による生きる力の育成

生徒がグローバル・マインドをもって主体的に社会に参画できる資質・能力を育成するために、家庭との連携を深め、地域・社会の組織や人々との関わりから学ぶ機会を積極的に設ける。

- (ア) 家庭との日常的な意思疎通をきめ細かく行い、学校と家庭とが協力して生徒を育ていける信頼関係を築く。
- (イ) 「総合的な探究の時間」をはじめ、様々な取組みにおいて、地域・社会の組織や人々と関わる機会を設ける。オーストラリアの学校との相互交流についても、生徒の語学力の向上とグローバル・マインドの育成を期する取組みとしてさらに発展させていく。
- * [学校評価に関する調査] 保護者 10「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」令和6年度には指標 11.0 程度まで上げる。(R1:7.6/R2:9.6/R3:8.9)
- * [学校評価に関する調査] 生徒 22「大学や中学校、地域の方たち、外国の方たちと交流する機会を設けている」令和6年度には指標 11.0 程度まで上げる。(R1:6.8/R2:5.4/R3:2.8)

(3) 「人権教育の4側面」をふまえた人権教育の実現

「人権のための教育（目標）」、「人権としての教育（機会）」、「人権を通じての教育（環境）」、「人権についての教育（内容）」の4つの側面をふまえた人権教育を実施する。

- (ア) 「人権についての教育」として、3年間の系統的な人権学習プランを実施し、生徒が様々な人権課題を自身の課題と重ね合わせて考え、豊かな人権感覚を身につけられるようにする。
- (イ) 一人ひとりが大切にされ、誰もが安心して過ごせる学校づくりへの意識を学校全体として高めていく。また、スクール・カウンセラー等の専門職の方と連携した教育相談体制を整備するとともに、教職員は生徒の小さな変化を見逃さず、丁寧に向き合い、組織的な生徒支援ができるようにする。
- (ウ) L G B T Q等へ対応した第三の制服を検討し、導入実現を図る。
- * [学校評価に関する調査] 生徒 18「豊かな心や人の生き方、人権などについて考える機会を設けている」令和6年度まで指標 13.0~14.0 程度を維持する。(R1:11.3/R2:14.0/R3:15.5)
- * [学校評価に関する調査] 生徒 16「悩みなどがあるときに相談できるようになっている」令和6年度まで指標 12.0 程度を維持する。(R1:10.9/R2:12.1/R3:11.2)

3. 学校組織力の向上

(1) 学習する学校組織づくり

全ての教職員が、教職に携わる者としての矜持を持ち、「めざす学校像」をふまえて、よりよい教育活動を実践していけるよう、常に学び、支え合う学校組織をつくっていく。

- (ア) すべての業務について、従来の枠にとらわれることなく、的確な状況把握に基づき、効果的・効率的に進めていけるよう改善していく。
- (イ) 変化の激しいこれからの社会に対応し、よりよく生きていくことのできる生徒を育む学校づくりをすすめるために、様々な機会をとらえて研修の機会を設ける。
- (ウ) 教職員に対して教育庁教育振興室が実施する育成支援チーム事業や教育センターが実施するパッケージ研修を導入して、人材育成をする。
- * [学校評価に関する調査] 教職員 19「各分掌や学年間の連携・協力が円滑に行われている」令和6年度には指標 5.0 程度に上げる。(H30:-0.8/R1:2.4/R2:0.6/R3:-0.5)

(2) 職場環境の改善

教職員の意思疎通を促進し、教員相互の理解を深めるとともに、業務効率を高めていくために、職員室等学校施設や設備の改善をすすめる。

- (ア) 教育活動における問題意識や悩みなどを教職員間で気軽に話し合える場を設け、「開かれた同僚性」に満ちた職場づくりをすすめる。
- (イ) ICT 機器を活用できる環境を整備し、業務の効率化を促進する。
- * [学校評価に関する調査] 教職員 20「教育活動における問題意識や悩みについて教職員間で話し合える職場環境である」令和6年度には指標 5.0 程度に上げる。(R1:1.9/R2:0.2/R3:-0.3)

(3) 危機管理体制の整備

すべての生徒が安心して安全に学校生活を送ることができるよう、施設・設備・制度の改善をすすめるとともに、危機管理体制をさらに充実させる。

- (ア) 生徒個々の状況を踏まえ、合理的な配慮ができる施設・設備改善を行う。
- (イ) 近隣の地域と連携した危機管理体制を整える。
- * [学校評価に関する調査] 教職員 17「災害や事件に対して迅速かつ適切な対処ができるような校内体制を整えている」令和6年度には指標 9.0 程度に上げる。(R1:7.8/R2:8.4/R3:5.1)
- * [学校評価に関する調査] 生徒 21「災害や事件が起こった場合、どう行動したらよいかを生徒に周知している」令和6年度まで指標 11.0 ~12.0 程度を維持する。(R1:11.3/R2:8.0/R3:7.2)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
1. 生徒 ・課題としていた「進路実現に向けて適切に指導している」は指標 12.2(昨年 11.8)とやや上向きとなり、達成目標である 12.0 を上回った。	【第1回】令和4年7月1日 [委員からの質問意見など] (1) 授業見学について ・情報の授業が新鮮であった。この先、必要なものであり、楽しそうに見えた。

府立清水谷高等学校

<p>・「学習習慣を定着させる指導をしている」は指標 7.5(昨年 7.0)とやや上向きであった。</p> <p>・昨年度数値が上昇した「学ぶ意欲を引き出す授業をしている」は、今年度は 7.0(昨年 7.6)と下降した。授業改善を本校の課題として引き続き取り組む。</p> <p>・人権教育に関する項目は、今年度は問い方を変更したためか、数値が下がった。来年度以降の変化を見たい。</p> <p>2. 保護者</p> <p>・「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」や「教育情報について、提供の努力をしている」の指標が 7.5 (昨年 8.9)、8.1 (昨年 9.6) と下降している。本校の課題として継続して取り組む。</p> <p>・保護者には Web 利用によるアンケート形式をとったが、昨年度のアンケート回答数が 538 に対して、今年度は 282 であった。より正確なデータ収集のためには、アンケート実施方法についても検討する必要がある。</p> <p>3. 教職員</p> <p>・「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」が指標 1.4 (昨年-0.3) とやや上向きとなったが、まだ低い水準なので引き続き課題として取り組む。</p> <p>・「各分掌や学年間の連携・協力が円滑に行われている」は指標-2.4(昨年度-0.5)と下降した。教員間のコミュニケーションを円滑にするため、職員室の座席配置の見直しや教科会の増数などに取り組む。</p> <p>・教職員についても Web によるアンケート形式をとったが、総回答数が 29 であったため、よりよいデータ収集のために、アンケートの実施方法について検討する。</p>	<p>・授業内容は深化している。</p> <p>・ICTは中学でも取り組みが進んでいる。</p> <p>・真面目に授業を受けていて、楽しそうであった。</p> <p>・化学の原子模型を使った授業は、頭に残る内容であった。</p> <p>(2) 令和3年度 学校経営計画及び学校評価について</p> <p>・もともと生徒の満足度が高く、それ以上上げるのは難しい。</p> <p>・指標の計算方法の変更を検討してはどうか。</p> <p>・昨年度の防犯カメラ設置は有難かった。保護者への一斉メールも助かっている。</p> <p>・全体として生徒の望む方向に向いているかが大切で、〇×に縛られることはない。</p> <p>(3) 令和4年度 学校経営計画及び学校評価について</p> <p>・第3の制服検討について生徒の参加はあるのか。→ 期末考査後に自治会生徒に話す予定にしている。生徒参加と意見の汲み上げは必須と考えている。</p> <p>・第3の制服に目が向き、セーラー服が消えていく可能性があることを考えることも必要である。清水谷は歴史と伝統を大切にしてきた。全部ブレザーに替わることも考えておかねばならない。ブレザーはパンツとのセットのみとし、スカートとのセットはセーラー服だけにしてはどうか。機能的にはブレザーは良いだろうが、複雑な思いがする。</p> <p>⇒ 今のままではLGBTQなどの生徒を受け入れられない制服になっている。</p> <p>・ブレザー(サンプル)を実際見るとかわいい。昨年度のPTA学年集会でも制服についての意見が出ていた。娘はセーラー服が来てたくて清水谷を志望した。複雑な思いである。</p> <p>・中学でも制服を変えている学校もある。生徒の思いを受け入れることが必要。3つの制服だけでなくもっと多様なニーズもあるのではないかな。</p> <p>・弁護士としてLGBTQを無視できない。運用上、難しいこともあるだろうが、やっつけていく中で試行錯誤してはどうか。私服という選択肢はないのか。第3の制服を一度やってみるのもよい。</p> <p>・今の時代、致し方ない。セーラー服が少数派になり、なくなるのは悲しい。男子詰襟はブレザーが多数になるかもしれない。</p> <p>⇒ 「制服をどうにかしたい」と昨年度の自治会立会演説会でも発言があった。120周年記念誌の座談会でも話題になった。生徒は新教育課程の「探究」活動の中で、ジェンダー平等を研究し始めている者もいる。</p> <p>・男子はブレザーに流れるだろう。女子もセーラー服は少なくなっていくのではないかな。</p> <p>⇒ 期末考査最終日に校長と自治会主担が自治会生徒に話す。自治会生徒は制服の見直しの話ができることを喜んでいる。「男子はこれ、女子はこれ」と決められていることが納得いかないと思っている生徒もいる。</p> <p>・未来の生徒のことを考えたら、望むべき方向性だと思う。120周年のキャッチフレーズは「・・・未来の友へ」であった。制服は過去の人たちのノスタルジーのものではなく、未来の人たちが何を望むかで決まってくるであろう。</p> <p>【第2回】令和4年12月9日 [委員からの質問意見など]</p> <p>(1) 令和4年度 学校経営計画及び学校評価の進捗状況について</p> <p>・制服のパターンが増えることになるが、清水谷生としての誇りや統一感のために校章は大切にしたい。</p> <p>⇒ III型制服のブレザーの胸のエンブレムは生徒提案で従来の2つの校章をデザインしている。</p> <p>・新型制服の導入は、以前より生徒からの要望もあり、また、人権問題に関わる配慮として、今回は迅速に導入すべきと考えた。</p> <p>・制服にブレザーが導入される流れは天王寺区の中学校でも次々にあり、大阪府全体で起きている。</p> <p>・生徒の学習環境を良く整えていただいております、ありがたい。</p> <p>・授業見学には、教職員も見学しており、多い授業では20人程度の見学者のある授業もあった。</p> <p>(2) スクールミッションについて</p> <p>・「愛と怒」を校訓に準じた位置づけにすることについて、今の清水谷高校の生徒が意味をしっかりと把握し、浸透していくように、説明していく必要がある。</p> <p>・以前から大切にしている言葉を見つめ直し、これからも大切にしていきたい。</p> <p>(3) 令和5年度リーディング GIGA ハイスクールについて</p> <p>・工事中に授業で黒板を使えないなどのことのないようにしてほしい。</p> <p>・中学校では現在ほぼすべての教科でプロジェクタを利用している。</p> <p>(4) その他</p> <p>・生徒が進路変更する場合は、理由も行先も多岐にわたっている。</p> <p>・学校見学会はこれまで10月と11月の2回を実施しており、いずれも1回につき約300組(150組ずつで2回転)が来校している。明日の3回めも概ね満席(150組ずつで2回転)の予定。</p> <p>・1月の学校見学会は、クラブ活動の見学を重点的に実施する予定である</p> <p>・中学生の進路の決定時期は年内である。</p> <p>【第3回】令和5年2月8日 [委員からの質問意見など]</p> <p>(2) 令和4年度 学校教育自己診断 集計結果について</p> <p>・web回答は無記名であるのか。→ アドレスは分からないようにしている。</p> <p>・オンラインで保護者も回答しやすい。</p> <p>・保護者の回答数が前年度に比べて減少しているが、昨年度は2~3回、保護者にメールで回答の依頼があったため、参加しやすかった。</p> <p>(3) 令和4年度 学校経営計画及び学校評価(案)について</p> <p>・教職員間の連携について、どのように考えているのか。→ 現在、教科ごとの職員室となっている。他校では学年ごとの職員室が大半であり、担任が随時情報交換しやすくなっている。来年度はこの点について改善していきたい。</p> <p>(4) 令和5年度 学校経営計画及び学校評価(案)について</p> <p>・来年度の学校説明会の時期を早め、春休み中にオープンキャンパスを実施する。中央区・天王寺区・東成区の中学生を対象(地域連携の一環として実施)とし、自治会執行部の生徒が主体となり開催する。本校生徒との座談会、清水谷ツアー(校内案内)、オーケストラ・アンサンブル部の演奏会(中庭)を企画している。通常の学校説明会も1学期から夏休みの時期に前倒しで行う予定である。</p> <p>・清水谷PTAによる大学見学会において訪問大学で大学生によるツアー(見学会)に参加した。生徒の声を聴けるのは良い企画だと思う。</p> <p>・清水谷ツアー(校内案内)に入学前、子供と参加して良い印象がある。</p> <p>・働き方改革の件で、府立の2校合同でクラブを実施すると聞いたが、清水谷はどうなるのか。→ 本校はペアリングの対象になっていない。</p>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3年度値]	自己評価
1 学力・学習力の向上と進路実現支援	<p>(1) 新学習指導要領の確実な実施</p> <p>(2) 4C*を育む「探究」の学びの推進 <small>*かんがえる力/つながる力 つくりだす力/かえていく力</small></p> <p>(3) 自らのキャリアをデザインする力の育成</p>	<p>(ア) 本校新カリキュラムの理念を踏まえたカリキュラム・マネジメントを確実に運用する。</p> <p>(イ) 校内におけるICT機器やオンライン・オンデマンド学習環境を充実させるとともに、観点別学習状況評価の実施にあたり、「授業づくり委員会」を設置し、指導と評価の一体化を図り、生徒の資質・能力を高める質の高い授業づくりを推進する。</p> <p>(ウ) 校内における生徒の自習スペースを拡充し、自学自習による学力向上を図るとともに、教員が生徒の1人1台端末を効果的に活用した授業を行えるよう、研修会等を継続的に実施する。</p> <p>(ア) 「総合的な探究の時間」の3年間の実施プログラムと指導体制を確立する。「探究」の取組みを通して、生徒の学ぶ意欲を引き出していく。</p> <p>(ア) 生徒の学力・学習力を診断する進路支援ツールを有効活用し、生徒が自らの進路を切り開いていく方法や考え方を身につけさせる。</p> <p>(イ) 学力・進路実績向上プランのシステム化をすすめ、生徒の希望進路を実現するための受験学力を集団的に高めていく。</p>	<p>(ア) 教員アンケート「カリキュラム・マネジメントが機能している」肯定率8割。</p> <p>(イ) 教員相互の授業見学会、授業研究会の実施(1回以上)。教職員4「教員間で授業方法や評価のあり方等について検討している」指標4.0 [2.2]</p> <p>(ウ) 生徒23・教員22「ICT機器を効果的に活用している」指標平均10.5 [9.3]</p> <p>(ア) 生徒3「学ぶ意欲を引き出す授業をしている」指標8.0 [7.6] 生徒アンケート「探究の活動を通して4Cが身についた」平均肯定率9割を維持 [92.1%]</p> <p>(ア) 生徒5「学習習慣を定着させる指導をしている」指標8.0 [7.0] 生徒8「進路実現に向けて適切に指導している」指標12.0 [11.8] (イ) 教員6「進路実現に向けて適切な指導をしている」指標8.5 [7.7] 国公立大学への合格者数を卒業者の16%、45名以上にする。(R1:11%/R2:15%/R3:14%) (R1:35名/R2:43名/R3:38名)</p>	<p>(ア) 教員アンケート「カリキュラム・マネジメントが機能している」肯定率83%。(○)</p> <p>(イ) 11月に教員相互の授業見学週間と授業研究会を2回実施済(◎) 教職員4「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」指標8.0 (○)</p> <p>(ウ) 生徒23・教員22「ICT機器を効果的に活用している」生徒6.7、教員10.8で平均は8.8 [10.5] (△) プロジェクタ使用は定着した一方で1人1台端末は使い切れていない。</p> <p>(ア) 生徒3「学ぶ意欲を引き出す授業をしている」指標6.9 (△) 生徒アンケート「探究の活動を通して4Cが身についた」平均肯定率92.5% (◎)</p> <p>(ア) 生徒5「学習習慣を定着させる指導をしている」指標は7.6に向上(△) 生徒8「将来の進路や生き方について考える機会がある」指標12.2 (○) (イ) 教員5「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択できるよう、きめ細かい指導を行っている」設問を府基準通りに変更。7.3 (△) 国公立大学への合格者数は卒業者の14.4%、40名であった。(△)</p>
2 主体的行動力の育成	<p>(1) 自治力の育成</p> <p>(2) 学校・家庭・地域の協働による生徒支援の充実</p> <p>(3) 「大人」を育てる、社会に開かれた教育の実践</p>	<p>(ア) 学校行事等の取組みにおいて、生徒が主体的に企画・運営できるよう、自治会や生徒委員会を指導する。</p> <p>(イ) すべての生徒が安心して生き生きと学校生活を送っていけるよう、多様性のある学校づくりをめざす自治会活動を支援する。</p> <p>(ア) 家庭や外部専門家と緊密に連携し、生徒一人ひとりのニーズに応じた支援を行える体制を整える。</p> <p>(イ) 学校ホームページの形式をCMSに移行し、常に新しい情報が家庭・地域に届く発信を促進していく。</p> <p>(ア) 成年年齢の引き下げを念頭におき、市民としての資質・能力を育成する教育を授業やHR活動の中ですすめる。</p> <p>(イ) 多様な人たちとの出会いを通して、すべての人の人権が大切にされる社会の担い手を育てる学習を計画的に実施する。</p> <p>(ウ) LGB T Q等へ対応した第三の制服を検討し、導入実現を図る。</p>	<p>(ア) 生徒13「生徒の自主性を重んじている」指標12.0 [11.0]</p> <p>(イ) 生徒12「自治会活動が活発に行われている」指標12.5 [11.9]</p> <p>(ア) 保護者10「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」指標10.0 [8.9] (イ) 教職員21「家庭・地域への教育活動に必要な情報の発信に努めている」指標7.0 [5.8]</p> <p>(ア) 生徒アンケート「社会で必要とされる資質・能力についての理解が深まった」肯定率8割 (イ) 生徒18「豊かな心や人の生き方、人権などについて考える機会を設けている」指標15.5 [15.5] (ウ) LGB T Q等へ対応した第三の制服を検討し、導入実現を進める。</p>	<p>(ア) 生徒13「生徒の自主性を重んじている」指標10.3 コロナ禍の継続で学校行事が制約された。(△) (イ) 生徒12「自治会活動が活発に行われている」ジェンダーレス制服やセーター類のデザイン決定などで自治会が軸になった。指標14.1(◎)</p> <p>(ア) 保護者10「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」指標コロナ継続で来校が限定。7.3 (△) (イ) 教職員21「家庭・地域への教育活動に必要な情報の発信に努めている」校長ブログ4月に開始。学校HPは8月にCMSに移行済。日常的なメール連絡も定着。指標5.2 (△) (ア) 生徒アンケート「社会で必要とされる資質・能力についての理解が深まった」肯定率8割以上(○) (イ) 生徒18「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」設問を府基準通りに変更。指標12.4(△) (ウ) ジェンダーレスの第三の制服は次年度入学生から導入実施決定(◎)</p>

府立清水谷高等学校

3 学校組織力の向上	(1) 学校組織づくり	<p>(ア) 各部署は、個々の取組みについてのPDCAを明確にしながら、業務内容を精査するとともに、さらなる効率化と教職員の負担の平準化をすすめていく。</p> <p>(イ) 不祥事を防止し、日々生起する様々な課題に組織的に対応できるよう、教職員が学び合い、助け合える同僚性を高める取組みを行う。</p> <p>(ウ) 教職員に対して教育庁教育振興室が実施する育成支援チーム事業や教育センターが実施するパッケージ研修を導入して、人材育成をする。</p>	<p>(ア) 教職員 19「各分掌や学年間の連携・協力が円滑に行われている」指標 2.0 [-0.5]</p> <p>(イ) 教職員 20「教育活動における問題意識や悩みについて教職員間で話し合える職場環境である」指標 2.0 [-0.3]</p> <p>(ウ) 教職員に対して教育庁教育振興室が実施する育成支援チーム事業や教育センターが実施するパッケージ研修を導入する。</p>	<p>(ア) 教職員 18「各分掌や学年間の連携・協力が円滑に行われている」問題が顕在化しており、次年度に座席配置等を根本変更の予定。-2.4(△)</p> <p>(イ) 教職員 19「学校の教育活動について教職員で日常的に話し合っている」授業見学週間や研究授業・協議を行いプラスには転換した。1.5(○)</p> <p>(ウ) 経験年数の少ない教職員に対し教育庁教育振興室が実施する育成支援チーム事業を年度内に3回実施し、本校課題を炙り出すとともに、ミドルリーダー育成をした。(◎)</p>
	(2) 職場環境の改善	<p>(ア) すべての教職員が安心して働ける職場づくりを進めるために、教職員同士が話しやすい職場環境に改善する。</p> <p>(イ) あらゆるハラスメントを許さないために、教職員研修を行うとともに、相談体制を改めて整備する。</p>	<p>(ア) 職員室、教務室の空間的環境改善に関する教員ミーティングを開催(1回以上)。教員アンケート「気軽に話し合える環境改善が進められた」肯定率6割</p> <p>(イ) 職員研修の開催(1回)。相談窓口の明確化。迅速に適切な対応がとれる体制の整備。教員アンケート「ハラスメントを許さない職場づくりに組織的に取り組んでいる」肯定率6割</p>	<p>(ア) 職員室、教務室の空間的環境改善に関する教員ミーティングを上記と職員会議を含め4回開催。(◎)</p> <p>教員アンケート「気軽に話し合える環境改善が進められた」肯定率6割(○)</p> <p>(イ) 外部講師を招いてPTAと合同の職員研修を12月に開催。(◎)</p> <p>相談窓口の明確化。迅速に適切な対応がとれる体制の整備も進んだ。(○)</p> <p>教員アンケート「ハラスメントを許さない職場づくりに組織的に取り組んでいる」肯定率8割(○)</p>
	(3) 危機管理体制の整備	<p>(ア) 生徒が安全に安心して学校生活を送れるよう、施設・設備の維持・管理、防犯体制の一層の強化をすすめる。</p> <p>(イ) あらゆる災害に対する確な対応ができるよう、避難経路や避難方法を改めて精査し、すべての生徒、教職員が共有する機会を定期的に設定する。</p>	<p>(ア) 生徒 20「施設・設備を整えている」指標 10.0 [8.6]</p> <p>(イ) 生徒 21「災害や事件が起こった場合、どう行動したらよいかを生徒に周知している」指標 8.5 [7.2]</p>	<p>(ア) 生徒 20「施設・設備を整えている」防犯カメラ等は前年度に設置済。食堂リニューアル。指標 7.8 (△)</p> <p>(イ) 生徒 21「災害や事件が起こった場合、どう行動したらよいかを生徒に周知している」9.8 (○)</p>